●京都府から交響プロジェクト事業報告書について再々問い合わせあり

一週間前に提出した地域交響プロジェクト報告書について再々問い合わせがありました。これまでとはかなり厳しい点検いただいて領収書の添付が間違いであると発見して頂いて大助かりとなりました。今年の報告書の領収書の枚数は 227 枚で但し書きのところが第三者が理解できるようにと厳しい指導があり、それに基づいて訂正箇所を指導いただきました。また印刷した枚数や使用目的などについても説明が求められました。財政状況が厳しい中、正確に指導通り掲載されていなくては大変厳しいようになってきています。里山の会では 2021 年度の交付申請については、昨年と同様に申請するべきか、改めるべき時に来ているのかと検討がはじまっています。自治体の自主財政が厳しい折、京都府のこの交付金によって大変助けられ、活動が継続できてきた恩恵には深く感謝しています。また財政の援助だけでなく、多くの人々との交流が深められる場面も大変多くあり、たくさんの活動を前進させていただきました。自主財政が 1/3 自己負担であることも重くのしかかってきています。大変困難ですが何とかこれまでの実績が継続できるよう頑張ってもらいたいものです。

●里山農園　夏の野菜の植え付け実施１日

４月に真夏日が続くなど、思いもよらない気温の変化があります。何よりも桜の時期が 10 日も早く訪れて、春という季節がアッという間に過ぎました。大変な季節の変わりようです。そしてもう夏野菜を準備しなければならない時期になりました。植え付けた後、激しい雨に見舞われると植付け失敗にならないかと心配しました。里山の会ではこれまで人手が足りなくて何事をするにも大ごとで少人数の皆さんの肩にかかってきたのか実情でしたが昨年から新規参加者が増加してこれまでとは違った里山農園風景が生まれてきました。石川さんたちが鶏を連れて参加してこられ、生き物と一緒の楽しい場面が作られ始めたころから雰囲気が徐々に変わりはじめました。さらに初参加の皆さんが意欲的で子どもたちも参加いただくようになって、楽しい面白いということになってきました。さらにこれからは学びあえる里山農園へと発展できるように頑張っていただきたいと心から願っています。

●2021 年度京都府交響プロジェクト事業交付金、素案策定

これまで交付金申請にあたって申請書作成で一番頭を悩ますのは、最初にしっかり計画を樹立して、事業を展開しながら内容の充実を考えたり、講師を探したり、場所を検討したりなどを検討しなければならない状態にならないようにしっかりした計画を立てておくことです。

●2021 年度国交省淀川河川事務所から木津川草刈り業者から実施の打ち合わせ連絡があり、早くも草刈業者の方々は、年間 2 回のうちの 1 回目の作業に取り組まれています。昨年里山の会では生育調査の場合、調査区域が判別しにくいとの意見が上がっていました。除草作業と生育調査作業が一緒になって里山の会が管理する場所の確認を共に行ってはと意見が上がっていました。まだ雑草も生い茂る前なら間に合います。ぜひ早期に実施して確定しておきたいものです。

●2020 年度会計決算　多額の次年度繰越金発生

昨年 2020 年度は会計事務処理を小川麻衣さんにお願いいたしましたので、これまでは難しかった処理が正確に行われ、かなりわかりやすい方式で進めていただきました。一昨年から次年度繰越金がわかりやすくなって、自己負担金や事業実施経費は一部役員が立て替えなければならない財政状況でした。それが徐々に軽減されて、2020 年度から随分軽減されるようになり、2021 年度は昨年と同様な取り組みならば理事による自己負担金をお願いしなくてもよい状況に到達できるほど次年度繰越金が送れるようになりました。大変大きな会計面での躍進です。ここまでの到達に至るまで多くの皆さんには大変な苦労とご負担とご協力をいただきましたことに心からお礼申し上げます。無一文から始めた活動も 25 年間の継続からここまで到達出来ました。大変ありがとうございました。

●竹蛇篭への工夫　シリー９回（最終回）

1 回目の取組で学んだことは

1　規格にあった竹はそれほどないこと　(太さ　長さ　曲がっていない)
2　竹割り作業大変な重労働で高齢者には不可能な作業であること
3　割った竹の節除去作業は予想を超える作業であったこと
4　竹は使用する分量だけ割っていくこと
5　できるだけ均一の企画揃えた素材を用意する事　（幅　長さ　肉厚　柔軟性　節の除去）
6　竹は真っすぐなものは無く大量に用意できないことを学びました

とにかく 2 回目の取組では、竹割り作業が手作業では無理なことがわかり、何がなんでもこの部分の改善が第 1 だと考え改良に全力を注ぎました。8mの竹を割り続ける機械の製作にとりかかりました。押し込む装置　分割装置　引っ張り出す装置　動作をする動力装置と作業を分解して検討しました。

次に幅に精製の製作機にも取り掛かりました。これはなかなかの難物で我々の手にかかるものではなくてまだまだ改良が必要です。最後に柔軟性を与える機械の取組です。これは作業場所の地盤が強固なアスファルトで硬く土木工事の振動装置に目を付け購入し一定の効果を発揮しています。

このように動力を利用するよう改善を進め資材の用意を行って作業の軽減を図ってきました。今では竹蛇篭製作 4 回目の経験で初めて自力で製作から設置まで一部土木業者の協力（資材の運搬）を得て実現が可能になりました。

竹割り機などを考案製作できたので、新鮮な柔軟性のある竹を用意できるようになり力作業から解放されました。今では誰でも少しの経験を積めば竹蛇篭が製作いただけるようになっています。